職員のみなさんへ一言メッセージ（第１１６回）

１２月も近づいたのに、入所者のみなさんや職員のみなさんに取って、過し易い日が続いています。特に、私にとっては、夜中の阿蘇乙姫での現地説明会は、堪えると思っていましたところ、この温かさです。本当に助かっています。

さて、九救協や熊救協で、私はいつも、仕事に取り組む姿勢や能力向上についての話をしています。１１月２２日 KKR ホテルで開催された平成２７年度の九救協職員研修会では、次のようなお話をさせて頂きました。

どのような姿勢で仕事に取り組めば、施設という組織に貢献できるのか、あるべき職員の姿勢として次の３項目を挙げさせて頂きました。

①決められたことを真摯にやり遂げ、正しく継続できる職員

②細やかでやさしい心配りができる、些事に強い職員

③創意と工夫による入所者サービスの創造ができる職員

実は、真和館ができた最初の頃は、入所者のみなさんに細やかな心配りをしていただくために②を「真和館の施設運営に関する基本的な考え方と行動規範」の《職員の姿勢》に掲げ、朝礼で、斉唱していました。

ところが、どうも②どころか、決められたことをチャンと守り、継続することがなんと難しいことか、忙しさにかまけ１回さぼり、２回さぼり、ついには、全くしなくなるというのが人の性であると気が付きました。そこで、現在は、「①決められたことを真摯にやり遂げ、正しく継続できる職員」に替えたという経緯があります。しかしながら、この言葉を斉唱するだけでは、「賽の河原に石を積む」になりかねません。その歯止めとして、５S に取り組んでいるわけです。

整理・整頓・清掃・清潔・躾を徹底的に行えば、必然的に、①は守られて行くことになります。この５S にも、奥深いものがあります。それは人目に付くところばかりを綺麗にする５S は所詮、「やらされる５S」「みせかけ５S」に過ぎません。人が見る見ないに関係なく全てを綺麗にし、磨きこむ、早く、そこまで行きたいものです。

③については真和館では、QC 活動として取り組み、これまで様々な成果を上げて来ました。真和館の独自のシステムは、みなさんの QC 活動の中から生まれて来ました。「１分間ラポール」など、結果としてみれば、簡単な結論でしかありません。しかし、生まれて来た理念や結論に至った背景には、職員のみなさんの知恵や汗の結晶が光っています。同じ手法や結論でも、真和館のシステムは、職員の現場の苦労の中から生み出されたものです。確り、受け継ぎ、継続・実施して行きたいものです。

自分の能力を振り返り、この３項目のどの能力を生かして行くべきか、確り考えたうえで、「目標管理シート」の記入をお願いできたらと思っています。

平成２７年１１月２５日　　真和館施設長　　藤本和彦